

平成30年11月22日
西部農林振興センター益田事務所農業普及部

標 題	コシヒカリからの品種転換に向け、「きぬむすめ推進大会開催」！ ～安定的な品質の島根県産「きぬむすめ」の作付け拡大を～
-----	---

(ダイジェスト)

11月13日に、JAしまね西いわみ地区本部と石西地域農林振興協議会の共催で、「きぬむすめ推進大会」が開催されました。JAと県からは「きぬむすめ」の情勢や新しい取り組みなどの情報提供、卸売業者からは全国の主食用米の状況をふまえた島根県産「きぬむすめ」に関する講演が行われ、参加者は興味深く話を聞いていました。この大会を契機に普及部では関係機関と協力して「きぬむすめ」の拡大をより支援していきます。

近年、主食用米の消費は減少傾向にあり、全国的に米余りが問題視されているなか、島根県産「きぬむすめ」の需要は高く、現在7,000tの需給ミスマッチが生じています。

一方品質面では、近年の高温障害により西いわみ管内（特に益田市平坦部）の1等米比率が低下しているなか、「きぬむすめ」は高位で安定的な品質を維持しています。

こうしたことから、11月13日に、西いわみ管内の生産者を対象として、「きぬむすめ推進大会」が益田市と津和野町の2会場で開催され、関係者含め約80名が参加しました。

JAしまね本店からは30年産米の動向から業務用米としての「きぬむすめ」の需要の高さを、JAしまね西いわみ地区本部は、管内の生育状況の説明がありました。また、農業技術センターからは今年度から開始した多収栽培の取り組みを、益田普及部からは益田市におけるその実証試験結果をふまえ、他の品種に比べより儲かる品種であることを報告しました。その後、取引先である（株）大阪第一食糧の講演では、卸売業者からみた「きぬむすめ」への期待について説明があり、参加者は興味深く話を聞いていました。

島根県産「きぬむすめ」は、消費者から求められており、同時に多収穫することで生産者の所得増加に繋がる品種です。この大会を契機に、普及部では関係機関と協力して「きぬむすめ」の拡大をより支援していきます。

